

## 議 事 録

<b>件 名</b>	令和3年度 第2回 久留米市男女平等推進センター運営委員会	
<b>日 時</b>	令和4年3月28日（月）19:00～20:30	
<b>場 所</b>	えーるピア久留米 210・211 研修室	
<b>出席者</b>	<b>委員</b>	堀田富子、末崎由美子、宮里武行、佐藤あい子、矢ヶ部秀範、 江藤美智子、酒井道宏、松本圭史、西田修三、伊崎より子
	<b>事務局</b>	酒井・大石・蓮尾（男女平等推進センター）
	<b>ワザパー</b>	重石・竹村・森山（男女平等政策課）
<b>欠 席 委 員</b>	角栄子、西田修三、中島誠治	
<b>傍 聴 者</b>	0名	
<b>配 布 資 料</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■第11期 久留米市男女平等推進センター運営委員会 委員名簿（本紙裏面）</li> <li>■令和3年度 施設の利用状況（事前配布）</li> <li>■令和3年度 事業実施概要（事前配布）</li> <li>■施設の利用状況追加資料（当日配布）</li> <li>■ジャーナル（当日配布）</li> </ul>	
<b>議 事 内 容</b>		
<p>1. 議題</p> <p style="padding-left: 20px;">令和3年度運営状況について</p> <p style="padding-left: 40px;">（1）施設の利用状況</p>  <p style="padding-left: 40px;">（2）事業実施状況</p>  <p style="padding-left: 20px;">令和4年度事業実施計画について</p>  <p>2. その他</p>		

## 議 事 内 容

### 【質疑応答】

#### 議題：令和3年度運営状況について

- (委員) 図書情報ステーションの利用状況において、年代別平均貸出冊数の中、7歳から12歳の区分が飛びぬけて多いが何か理由はあるのか。また、どのような本を借りているのか。
- (事務局) 図書情報ステーションでは男女平等に関する本を揃えており、また他館の本も貸出可能としている。コロナ下という状況や、10月から12月まで中央図書館が休館していたこともあり、児童の利用が増加したと考えられる。センターでは男女共同参画に関する絵本や女性の歴史といったものを積極的に新刊として取り揃えており、その貸出もある。
- (委員) 記載してある貸出冊数とは男女平等推進センター所蔵のものだけでなく、他館のもの含むのか。
- (事務局) 他館の蔵書も含んだ男女平等推進センターでの貸出冊数となっている。
- (委員) このデータは若年層の中では小学生がやはり一番貸出数が多いと見てよいか。
- (事務局) はい。
- (委員) 図書情報ステーションはレファレンス機能があるはず。男女平等推進センターの図書情報ステーションは一般の図書館と違い、特別に男女平等に関する資料を収集や図書講座等で発信していると思うが、図書職員に男女平等に関する知識がないと難しい。図書職員に対する男女平等の研修等は行っているのか。またレファレンスの実績数は。
- (事務局) 図書職員の研修についてだが、本来はレファレンス研修も含め全国的に男女平等の専用研修が実施されており、過去にはその研修に派遣していた。現在はコロナ下の状況もあり研修の案内自体が中々来ていないため受講の難しい状態にある。そのため基本的な図書時の知識については中央図書館等と月一回の会議で共有している。合わせてセンターが実施する男女平等講座に参加してもらう等で研修としている。レファレンスの実績については具体的な数は集計していないが、今年度が男女平等推進センター開館20周年ということもあり、久留米在住の女性の活躍に関する相談や質問は受けていた。
- (委員) 男女平等推進センターで図書を利用することがあるが、男女に関する本でも中央図書館所蔵で男女平等推進センター所蔵ではないものがある。そういう図書に関しても今後よくアンテナを張る等して情報収集していただきたい。
- (委員) 他館からの相互貸借が可能とあるが、他館から取り寄せする場合に送料等はかかっているのか。また、レファレンス研修や本の研修として県立図書館や図書館協議会が実施しているものがあると思うがどれくらい参加されているのか。
- (事務局) 相互貸借については送料含め手数料は無料。県立図書館の研修は過去参加していたが、昨年、一昨年は参加していない。今後検討したい。
- (委員) 今回労働問題に関するデータが出ている。前回の運営委員会で総合相談の中に労働相談に関する周知を広報く る め で行 っ て 欲 し い と 要 望 し た。それ を 踏 ま え て 今 年 の 1 月 及 び 2 月 の 広 報 く る め で は 労 働 相 談 に 関 す る 記 載 が な さ れ て い た が、3 月 の 広 報 く る め で は そ の 記 載 が 無 か っ た。3 月 に 記 載 が 無 か っ た 理 由。ま た 4 月 以 降 の 記 載 は ど う な る か を 聞 き た い。
- (事務局) 3 月 に 記 載 が 無 か っ た の は 完 全 に 校 正 段 階 の 見 落 と し で あ り、こ ち ら の ミ ス で あ る。今 後 見 落 と し が 無 い よ う 再 度 心 が け る。ま た、4 月 に つ い て は 広 報 側 か ら 相 談 が あ り、掲 載 内 容 が 多 く、紙 面 の 関 係 上 掲 載 が 難 し い と の こ と だ っ た の で 総 合 相 談 の 記 載 自 体 が 無 く、法 律 相 談 の 記 載 の み と な っ た。5 月 以 降 は 記 載 さ れ る。

- (委員) 広報側の都合もあるだろうが、総合相談の記載が落とされるのは理解できない。月一回になったからこそ、相談事などの広報は本当に困っている方に届くよう重要である。必要な情報の選択を再度勘案して欲しいと意見が出たと広報に伝えて欲しい。
- (委員) 市民にとって一番大事なところが広報から抜け落ちて行っている。もっと市民目線での広報作りをして欲しい。
- (委員) DV性暴力被害者支援サポーター養成講座について、基本対面実施となっていると思うがオンデマンド配信等は検討できないか。予算の問題もあると思うがいかがか。
- (事務局) 今の状況の中、オンデマンド配信や自宅で聞ける環境というのは非常に有効だという認識はある。しかしながらDV性暴力被害者支援サポーター養成講座については被害例等非常にデリケートな部分を扱うことから、実施団体との協議でもオンラインでの配信は難しいとしている。
- (委員) プライベートな部分があり配信できないというのは分かった。ただもし可能であれば、プライベートな部分をカットしてでも配信で受講できるような形にしていただけるとありがたい。
- (委員) 女性の起業応援セミナーについて参加者は全て久留米市在住なのか。
- (事務局) 今年度の受講者については久留米市外の方も含む。過去受講した方にアンケートを取ったところ久留米市内での開業が8件、久留米市外での開業が4件であった。
- (委員) 前回もいったが、起業した方全員が成功するのは難しい。起業リスクの研修も含め今後セミナーを開催して欲しい。
- (事務局) 確かにセミナーの中では資金計画も含め行うので、認識の甘さを知り起業を考えなおす受講生もいた。いただいた意見は今後参考にしたい。
- (委員) 学生・社会人向けの公開講座があると思うが、公開講座であればハイブリットでできると思う。また事業概要には参加者の実績数しか載っていないが、毎年やっている講座であれば、アンケート結果等のフィードバックも載せて欲しい。加えて今回の実績に中学生に対しての公開講座がないのは何故か。
- (事務局) 中学生に対しての実績が無いことについては、申請方式のため中学校からの申込が無かったことを意味する。フィードバックについては毎回収集しているアンケートや感想を担当者が報告書という形で挙げることで改善につなげている。アンケートには具体的なことを書かれるので、実績報告に挙げるのはすぐわないと考えている。
- (委員) 感想の中身ではなく、アンケートに感想などを点数化する項目があればグラフ化できると思うのでそういった形での表現も検討してもらいたい。
- (事務局) 検討する。
- (委員) 出前講座のタイトルについて全て暮らしの中の男女共同参画になっているが、地域ごとに話している、求められているテーマ異なると思う。事業概要にはそれぞれにどのようなテーマで講義を行ったかまで記載して欲しい。また就職支援セミナーを三つ開催してあるがそれぞれターゲットは同じだと思うので、セミナーに一連の継続性や一体性をもたせることはできないか。
- (事務局) 出前講座のタイトルについては、このタイトルが出前講座としてのプログラム名として地域から申し込みがあるため、それをそのまま記載している。しかしながら各地域に合わせ中身のどこに重きを置くかは異なっている。ただそれを事業概要に載せるのは先ほど同様具体性が高すぎて事業概要にすぐわないので、必要に応じて別紙に分析含めてまとめるなどで対応したい。就職支援セミナーについては仰るとおり継続性や一体性をもたせることが理想であると考えている。今後の参考にしたい。

(委員) 要望としての意見。労働講座の講師が大変良く、受講生が受講後に質問や相談している姿がみかけられた。しかし時間が足りず十分な相談ができなかったようにも見たので、次回は労働相談の時間を別で取って欲しい。また、市民企画で男女平等への思いを集めて冊子にしたものがあって大変良かった。それに関連して職員の意識への研修も重要。センターの職員は事業の計画等も行うが行政職員であって男女平等の専門職員ではない。なので、ジェンダーに詳しい方もいればそうでない方もいる。なので、研修を続けることは大事。また一番大切なのは男女平等の拠点施設としてのこのセンターの意義。開館 20 周年も立つと当時の思いが引き継がれにくくなる。今でも女性たちはその思いをもっているの、その点は職員間で共有して欲しい。

(事務局) 承知した。

(委員) フラワーデモを行ったとあるが、これは主催講座か。主催講座であれば広報をどう行ったか教えて欲しい。

(事務局) フラワーデモについては、市民企画を共催という形で支援した。共催なので久留米HPで広報は行ったが、チラシ等は市民団体が作成していないので配布はしていない。

(委員) 今後は共催だとしてもチラシ等を準備し窓口において欲しい。

(委員) 主催共催という形をとった場合に、事故等の責任はどこが負うのか。

(事務局) 共催については団体から公的な場所で行いたいという要望があったため行動に賛同する意味も込め、共催という形で支援を行った。通常の講座であればチラシ等の配布も支援の一部として行うが、デモについては今後もチラシを作らないと聞いている。そのため情報提供については別の方法を検討したい。

(委員) 3月12日の国際女性デーでの講座が載っていないのはなぜか。3月24日の講座は載っている。人数を書き込めなくても良いのでタイトル含めて枠だけは作って事業概要には記載して欲しい。また、簡潔でよいので国際女性デーの講座をお願いしたい。

(事務局) 国際女性デーを記念して女性のアメリカ領事を招きお話いただいた。以前から何度か依頼しやっと実現した講座になる。申込多数だったので部屋を視聴覚ホールに変更し行った。より多くの質問を受けたいと考えたので休憩時間に質問を紙に記入いただき、読み上げる形で質疑応答を行った。アメリカの事例を学ぶことで男女共同参画が実現している部分と難しい部分等のお話など非常に有意義な講義となったという感想が多かった。事業概要に書き漏らしていたことについては以後気をつける。

(委員) 先ほどと重複するが、やはりこういった有意義な講座はオンラインで配信や録画の貸出について考えて欲しい。行きたいけど日程が合わないことがある。もう一度オンライン配信についての考えを聞きたい。また中止されている講座の中で内容が「久留米市の学校教育とGIGAスクール」といったものがあるが、これがどう男女共同参画と結びつくのか教えて欲しい。

(事務局) オンライン配信・ビデオ配信については著作権の関係で一般的に講師の了解が得られない場合がある。しかしながら会場参加が難しいとの声も確かにあるので、今後検討を進めたい。また講座終了後には久留米市のホームページで講座終了報告を載せているので、こちらも参考にさせていただけたらと思う。「久留米市の学校教育とGIGAスクール」については女性のための政策参画講座で実施するものであり、市の部長級が直接講座するものになる。これを機に政治参画への意欲を高めてもらえればと思う。

(委員) 毎月メール等で情報を送信されていると思うが、その際に講座報告についての情報も「載せていただければと思う。

(委員) 中止になった学校教育については楽しみにしている声もよく聞いたので再実施について検討して欲しい。

【質疑終了】

【令和4年度事業実施計画について（質疑はなし）】

（事務局）今後の講座企画の参考に委員のご意見を伺いたい。

（委員）デートDVに関して2点要望したい。アンケートから自分の思い通りにならないと相手の不機嫌になるといった、相手のことに関する相談がとても多い。5割を超えているといったデータがある。精神的暴力については60%以上の数値となっている。ぜひDVやデートDVの予防教育の機会を増やして欲しい。また質疑でもあがっていたが改めてオンライン配信、Youtube等で申込者に限定で公開するという形でもいいので検討して欲しい。相談の拡充について一点、コロナ下でも相談需要は高い水準をキープしているが、電話での相談はハードルが高い面もある。若年層の利用が半数を占めているのであれば、チャット相談の仕組みを取り入れるなどツールとして相談者の選択肢を増やす検討をしてもらいたい。

（委員）女性問題に対する基礎講座、これの中に労働法に関する講座は毎年入れて欲しい。

（委員）オンライン配信やハイブリッド配信でのスタッフにも男女共同参画サポーターを活用して欲しい。

（委員）聴覚障害者の立場として、聴覚障害者向けの講座もお願いしたい。またセンター窓口到手話通訳者を配置して欲しい。

（委員）親世代にジェンダーがまだ根付いている。SNSやビデオ等を活用して親世代にアプローチして欲しい。また、女性向けの講座・研修のみならず会社向けとかそういった講座も検討して欲しい。

（委員）次世代への教育に力を入れて欲しい。将来のマネープランやキャリアプランを男女差無く平等に教えられるような取組をして欲しい。それとオンライン配信については大変賛成する。

（委員）女性の相談ホットラインの周知等の拡充の検討をお願いしたい。

（委員）講座の参加者で価値観が変わったという方がいる。自分の環境が何故そうなっているのか、女性がなぜ賃金が低いのか等、個人ではわかりにくい。定期的に国の政策や法律とか役割分担とか、そういったものをわかりやすく理解できる講座をして欲しい。

（委員）保育園など向けの講座をしても面白いのでは。また子育てママ講座等キャッチーな講座は定期的にやって欲しい。

（事務局）参考にさせていただく。

【終了】